

三重の土地改良アラルト

国営宮川用水第二期農業水利事業の完工について

三重県農林水産部農業基盤整備課

1 はじめに

平成7年度に着手した国営宮川用水第二期農業水利事業は、平成24年度に事業完了することとなり、11月13日に伊勢市内で完工式を挙行することとなりました。

この機会を捉え、宮川用水事業について紹介させていただきます。

2 宮川用水の歴史

宮川用水は、昭和32年度～41年度に実施された国営かんがい排水事業（5,766ha）と、昭和35年度～53年度に実施された県営かんがい排水事業（4,482ha）及び団体営事業により造成されました。

その後、昭和54年度～60年度に国営造成施設整備事業により粟生頭首工の補強が行われましたが、導水路（トンネル）や国営幹線水路（オープン水路）は、建設当時から約30年以上にわたり、「命の水」を運ぶ役割を果たして来ました。

3 第二期事業への要請

昭和60年代になると、宮川用水の受益地では、稲作の早場米へのシフトによる用水時期の変化や、ほ場整備による乾田化に伴う単位用水量の増大等により、用水不足が生じてきました。また施設の老朽化や、既存水源の利用量減少等により、安定的な用水確保が困難となってきました。更に農業経営の形態変化により、効率的な用水管理が望まれるようになりました。

このため平成7年度着手した二期事業では、水資源の有効活用と用水管理省力化を図るために、オープン水路をボックス化やパイプライン化するとともに、用水系統のなかに大規模な調整池（容量200万 m^3 ）を造成してきました。

4 国営事業の推進

第二期事業の主な事業内容は、次のとおりです。

(1) 斎宮調整池の造成

明和町と玉城町に跨った地域に、既存の2箇所のため池を拡張し、貯水量200万 m^3 の調整池を造成しました。これ



斎宮調整池 全景



斎宮調整池管理事務所

により、受益地全体の用水配分の円滑化と、渇水時に備えた水源確保を実現しました。

(2) 粟生頭首工

粟生頭首工では、魚類の遡上に寄与するために、左岸のみであった放流工を右岸にも増設しました。また、河川区域にあった操作管理所を移設し、増水時の安全確保を図りました。



粟生頭首工



粟生頭首工管理事務所

(3) 導水路

導水路15.4kmについてポリマーセメントモルタルライニングを施工し、水路壁面の粗度を低下させることにより、同一断面で流量を増加させることができました。



導水路 通水状況



導水路 施工後

(4) 幹線水路

開水路であった幹線水路をボックス化やパイプライン化し、安全確保と用水管理労力の低減を図りました。



1号幹線水路 施工前



1号幹線水路 施工中

(5) 水管理施設

水管理システムを整備し、造成した施設の確実及び高効率な運用操作による水管理の合理化を図りました。



粟生頭首工 操作管理施設



斎宮調整池 操作管理施設

5 おわりに

国営事業による効果は、関連事業で末端までパイプライン化されることによって発揮されることとなります。県では引き続き、県営かんがい排水事業や経営体育成基盤整備事業により、末端のパイプライン化に取り組んでいきます。